

進学・進級したら、自分で起きて学校に行こう!

自立・連携課よりお知らせ



「みみちゃん」64号で振動式目覚まし時計を御紹介したところ、いくつか問い合わせを頂きました。実際に申請や購入をした方もおられます。

ただ、ほとんどの方の場合、福祉申請の対象にはならず、価格的にも一万円前後はするものですから、「一度試してみたら」購入を考えたいと思うのは、当然のことです。

聴能言語室には、10年以上前に、教材として購入していた「ビッグタイム」という振動式目覚まし時計があります。

実はこの時計、ACアダプターが故障していてずっと使えなかったのですが、先日、中古のアダプターを入手し、使用できるようになりました。また、振動の強さや使い勝手の比較ができるようにと、もう1台「ソニックシェーカ」という振動式目覚まし時計も購入しました。

この「ビッグタイム」と「ソニックシェーカ」の2台の振動式目覚まし時計を、希望する本校の皆さんに貸し出し、利用してもらおうと思います。振動式目覚まし時計の購入を検討している方は、以下をお読みいただき、担任の先生を通じて自立・連携課まで御連絡ください。そして、是非使ってみて、購入を御検討ください。



振動式目覚まし時計・貸し出し要領

- ★ 貸出機 : ① ビッグタイム ② ソニックシェーカ
 - ★ 一度に貸し出しできる期間 : 2週間とします。
 - ★ 連続しての再貸し出し : 可能です。
- (但し、他に希望者がいる場合は、そちらを優先します)

御報告・・・「授業交流」を行いました!

聞こえない子供同士のかかわりの機会を設けることを目的にスタートした授業交流。今年度は、小学部の1・2年生で合わせて5回行いました。国語や算数、生活科では、お互いに普段の授業の様子や内容を紹介し合ったり、音楽や体育では、一緒に歌ったり体を動かしたり話し合い活動をしたりして、充実した交流になりました。授業を担当した本校の教員からは「授業の進捗や能率には表れない大切なものが得られる」という感想がありました。

授業交流は、地域の学校に通う聴覚障害のある人なら、誰でも申し込みができます。興味がある方は、本校担当(佐伯)まで御連絡ください。概要や手続きの仕方について御説明いたします。

『補助犬と暮らす喜び』 ～盲導犬・介助犬・聴導犬と生きる人たちの声～

先日（1月31日(日)）、松山市総合福祉センターで開催されたイベント『補助犬と暮らす喜び』～盲導犬・介助犬・聴導犬と生きる人たちの声～に参加して来ました。

「補助犬」というのは、「盲導犬・介助犬・聴導犬」の総称で、身体障害者の生活をサポートする犬のことです。2002年、身体障害者の社会参加ができやすくするために「身体障害者補助犬法」ができましたが、社会でまだまだ理解されていないことが多いということを知りました。例えば、次の問題、お分かりになりますか？

- ① 時々みかける「ほじょ犬」マーク。
このマークがあるところは、補助犬を連れて行っても構わない。
- ② 補助犬は吠えないので、怖がらずにスキンシップをとると良い。



正解はどちらも×です。

法律で認められた「補助犬」は、マークの有無に関係なく、バスや電車、お店や病院、レストランなどあらゆる場所に同行することができます。また、仕事中である「補助犬」を撫でたり手を差し伸べたりしてはいけません。イベントでは、「補助犬」



のデモンストレーションを見たり、実際に生活している方々のお話を聞いたりしました。「補助犬」の存在は、身体障害者であることのアピールにもつながります。例えば、聴覚障害者の場合、コンビニのレジでのやり取りがスムーズにいかないこと（「お箸いりますか」「袋にお入れしますか」等）はよくありますが、「聴導犬」と一緒に入店するようになり、店員が分かりやすい方法で伝えてくれるようになったという話を伺うことができました。また、こ

の他にも、講師の方からは「愚痴を聞いてくれたりして癒される」「生活にメリハリが出てきた」「自分が頑張らなければと逆に思っている」等と率直な想いを聞くことができました。実感したのは、タイトルにもあるように、犬たちの存在は、身体障害者に生活の便利さだけでなく、生きる喜びや活力をも与えているという事実でした。

「盲導犬」は国内で1000頭ぐらいいますが、アメリカは10000頭と桁が違います。国内の「聴導犬」に至っては60頭ほどのこと。ちなみに「盲導犬・介助犬・聴導犬」の3つが県内に揃っているのは愛媛県だけだそうです。単なる支援に止まらないパートナーとしての存在である「補助犬」が今後、もっと普及して欲しいと思いました。



シバントス株式会社・補聴器奨学生募集の御案内

「シバントス」という補聴器メーカーを御存じない方も多いかもかもしれません。「シーメンス」といえばお分かりでしょうか。ドイツの有名なメーカーです。

そのシバントス社は、社名変更1周年を記念し「**補聴器奨学生**」を募集します。これは、シーメンスの補聴器を無償で支給してもらえるというもので、抽選で139名が対象となります（シーメンスの補聴器事業部ができて138年になることから、だそうです）。



対象: 小学生から大学生（24歳まで）の難聴者
（身体障害者手帳の有無は問いません）

※ シバントス社指定の補聴器販売店で、継続的に補聴器の調整が受けられることが条件

機種: シーメンス補聴器の中から、聴力ニーズに適した製品を支給

注意: 電池、イヤモールド、保証期間終了後の修理は、個人負担

募集パンフレットは、本校自立・連携課にあります。興味がある方は、担任の先生を通じて御連絡ください。また、ホームページからも申し込みができるようです。

URL : <http://www.bestsound-technology.jp/shogakusei>

〆切りは4月30日、当選連絡は5月下旬、補聴器の支給は6月以降になるとのことです。

第5回 シーメンス補聴器臨床セミナーに参加して来ました

先日(2月20日)、東京で行われた「シーメンス補聴器臨床セミナー」に参加してきました。講演は、無線の受信機を貸し出してもらい、楽な大きさとクリアに聞き取ることができました。この辺り、さすがは補聴器メーカーの配慮だと思いました。外国人講師の講演は、この受信機のチャンネルを変え、同時音声通訳者の声を聞きながらの受講となりました。通訳者のスキルにも感心させられました。以下、受講した内容です。

① Joel Beilin(ジョエル・ベリン)先生 (シバントス社オーディオロジー統括責任者)

日本では、外国に比べ補聴器の両耳装用があまり進んでいません。両耳装用の効果は、騒音下での聞き取りの向上等が挙げられますが、より感覚的な「聴く労力(リスニングエフォート)」の観点から、コロラド大学との共同研究で得られた臨床データを元に解説していただきました。普段感じている「楽に聞こえる」ことの大切さを再確認することができました。

② 小川 郁 先生 (慶応義塾大学医学部 耳鼻咽喉科教授)

日本の耳科学、聴覚医学における第一人者の先生で、「NHKきょうの健康」など多くのメディアにも出演されています。講演では、難聴が認知機能に及ぼす影響や、うつ病、認知症との関連について、コホート研究(特定集団の追跡研究)による結果等を示しながら説明していただきました。日本は高齢者の補聴器装用率は高くないのですが、補聴器の効果をもっと啓発する必要があると思いました。

③ 関谷 芳正 先生 (エスエル医療グループ 関谷耳鼻咽喉科 院長)

日本で初めて耳鳴りに対するTRT(耳鳴り再訓練療法)を臨床で導入された先生です。講演では、その耳鳴りのメカニズムや対応補聴器の仕込みについて解説していただきました。耳鳴りと補聴器の関連については、全く知らなかったこともあり、初めて聞くことばかりで驚きの連続でした。

④ Susan Scollie(スザン・スコリー)先生 (カナダ・西オンタリオ大学 国立オゾノロジーセンター《NCA》准教授)

補聴器におけるデジタル信号処理の評価と、乳幼児期から成人までの結果を基にした早期診療プログラムの研究に取り組んでおられます。フィッティングの手順がカナダと日本では違い、カナダでは、インサートイヤホンを用いて聴力検査をしていること等を初めて知りました。装用時の閾値や不快レベルを重視すること等、日頃の子供の補聴器調整に関するヒントもたくさん得ることができました。

御案内 ～「耳の日」のつどい

3月3日の耳の日にちなみ、この日の前後に全国各地で様々なイベントが行われるようです。

松山市では、「耳の日」のつどいが行われます。



日時 平成28年 3月 6日 (日) 10時～15時
 場所 松山市総合福祉センター (松山市若草町8-2)
 内容 【1階・大会議室】

- ◆ 耳に関する講演会 10時30分～12時
 「難聴や耳の病気を知ろう！」
 松山赤十字病院耳鼻咽喉科 篠森 裕介 氏
- ◆ 手話パフォーマンス発表会 12時15分～13時
 「私と小鳥と鈴と」
 ※ 手話パフォーマンスに参加される方は、10時から約2時間、坊っちゃん劇場の指導による練習があります。
- ◆ 三団体主催講演会 13時30分～15時
 「私の歩いて来た道」 全国手話研修センター 黒崎 信幸 氏
 【ロビー・仮設ステージ】

- オープニング・セレモニー 9時50分～
- 抱っこスピーカー体験
- 聴導犬ミニ講座
- 相談コーナー 《本校も協力いたします!》
 (教育相談・補聴器相談・薬、介護相談、旅行相談、総合相談)
- 体験コーナー
 (手話&要約筆記ミニ講座・ミニホワイトボード作り)
- 紹介出店コーナー

この記事は、松山市社会福祉協議会より本校に御案内いただいた資料を基に作成しました。内容によっては、事前申込が必要なものもあります。時間や詳しい内容については、直接、松山市社会福祉協議会にお尋ねください。

問合せ先 松山市社会福祉協議会 (聴覚総合支援室)

編集後記

「みみちゃん」第66号をお届けいたします。「みみちゃん」64号で御紹介した国体の情報支援ボランティア、みみちゃん担当者は「意を決して」先日申し込みました。先日行われた愛媛マラソンでは、多くの大会スタッフやボランティアの方々が運営に携わっており、参加者の一人としてその有り難さを実感しました。大会を支えるボランティアは、前後の準備や片付け等、ある意味選手より大変な面が多いと聞きます。国体終了後には、この「みみちゃん」で体験報告ができればいいなと思います。それよりも先に、手話の勉強をもっともっとしなければ・・・。